

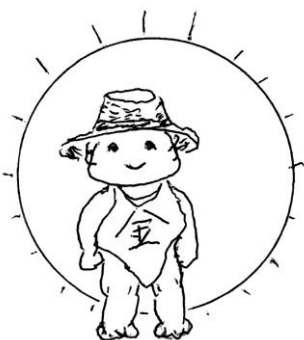
藤田浩子の 少し昔のこと 〈102〉

汗腺が発達しない

涼しくなり始めましたが汗の話を書かせていただくと思います。今年の夏は暑い夏でした。気象庁の予報用語でいうと「夏日」というのは25℃以上の日で「真夏日」というのが30℃以上の日「猛暑」というのが35℃以上の日なのだそうです。

35℃以上が猛暑なら「酷暑」というのは何度以上なのだろうと思っていたら「酷暑」というのは正式な気象用語としてあるわけではなく、新聞などのマスコミが猛暑の俗称として使っている言葉なのだから。猛暑だろうが酷暑だろうが、言葉はいつでもいいのですが、とにかく暑い夏でした。

その暑い中で、保育園や幼稚園では、今日は涼しい風が吹いているからとか、日陰なら大丈夫そうだからと、なんとか外遊びをさせようと努力している園が多かったと思



いますが、家庭ではそこまで努力をしないで、暑い日には冷房の効いた室内で過ごさせることが多かったのではないかと思います。室内で遊ばせるとなると、ビデオだのチューブだのと、機械に頼ることが多くなり、それも気になるのですが、今回は機械の弊害ではなく、赤ちゃんのときから冷房の効いた部屋で過ごすことの弊害を書きたいと思っています。

人間は暑くなると汗腺を広げて熱を放出し、寒くなると汗腺を閉じて熱を出さないようにして体温を調節するのですが、赤ちゃんの時から冷房の効いた室内にばかりいると、その汗腺が発達しないそうなのです。そういう子を診察したわけでもないし、原因と結果を研究しているわけでもない私ではありますが、あちこちの保育園に伺ったり、保育士さんたちの話を聞いたり、実際に子どもたちの様子を見たりしているその経験から考えると、夕方になって38度～40度の熱を出す子が増えているのは確かです。そういう子は汗腺の開閉がうまくいかず、昼に浴びた熱を体にため込んでいるからではないかと思えるのです。

リレー連載 <235>

わたしの大好きな絵本

いとくま (ベリーズ)

秋はいろいろな楽しみがいっぱい。「ぱんだなりきりたいそう」は読書の秋とスポーツの秋を楽しめる、ほっこりあったかい絵本です。かわいいぱんだ達が、白黒の特性を活かし、いろいろなものになりきり、ポーズ。体操という名のかわいい謎かけ!? 愛嬌を存分に発揮して一生懸命ポーズをとります。ページをめくるたびに思わず、フフと笑みがこぼれるかわいらしさ。その愛おしさは、小さなお子さんが夢中になって楽しそうに遊ぶ姿に思わず微笑んでしまう気持ちと通ずるような気がします。

『ぱんだなりきりたいそう』

いりやまさとし作 講談社

絵本をゆっくりめくって楽しむもよし、はんだと一緒に体を動かすもよし、読み手のニーズに合わせた楽しみ方ができる作品です。「ぱんだたいそう」はシリーズで何冊もでていたので、お好みでいろいろなぱんださんを探してみるのも楽しいですよ。運動が苦手?大丈夫。ぱんだ体型の私でもできるポーズ、ありました(笑)

